（学校番号244）　　令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」春野中学校】

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	＜学習上の課題＞ 基礎的・基本的な知識・技能の習得について、一定の成果が出ているものの、十分ではない。また、メタ認知能力、自己調整の力が弱い。 ＜指導上の課題＞ 反復練習する時間、自己の学習を振り返る時間を十分に確保できていない。	⇒	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」の活用、小テストの実施により、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む。【授業の初め等】 「スクールダッシュボード」や振り返りシートを活用し、1時間の授業を振り返る時間を設定する。【毎回の授業の最後】
思考・判断・表現	＜学習上の課題＞ 表やグラフなどの資料から特徴や傾向を読み取り、言葉や数を用いて表現することに課題が見られる。 ＜指導上の課題＞ 生徒自身が考え、判断し、表現する場面の設定が十分になされていない。	⇒	各教科の授業において、生徒が個人またはペア、グループで考え、判断し、表現する場面を設定する。【単元ごとに1回以上】 教科横断的な視点から、総合的な学習の時間で、各教科で学習したことを活かして思考・判断・表現する場面を設定する。【各学期1回以上】

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率において全国平均を下回った。「書くこと」における問いでは誤った漢字を見つけて修正する問題で全国平均を上回っているため、漢字や言葉を使いこなせる語彙として定着させていきたい。数学では図やグラフの問題では正答率が全国平均を上回った。一方で「数量を文字を用いた式で表す」問題では正答率が下回った。全体的に記述の問題での正答率が低いので、知識を活用する技術を養いたい。理科の「塩素の元素記号」の正答率で全国平均を上回った。「消化による化学変化」の問題に課題がみられた。基礎の定着不足がみられる。
思考・判断・表現	国語の「話すこと・聞くこと」において全国平均を下回った。自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することが課題といえる。そのため、課題に即してスピーチメモを用意して発表させたり、相互に評価したりする言語活動を取り入れていきたい。数学では、式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明する問題での正答率が全国平均を下回った。理科では「身の回りの事象から生じた疑問解決」や「馳走の性質」の正答率で全国平均を上回った。一方で「実験結果からの分析解決」では課題がみられた。思考の分野で大きくスコアを落としている。図や特徴、結果に対しての読解力を底上げしたい。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	各学年、家庭学習を推進するために「1Pノート」に取り組んでいる。定期テストごとに10ページ以上家庭学習をする取組みである。また、夏休みには特別活動室を解放して自習室を設けたり、「春野道場」という勉強会場を設定したりしている。授業ではエナジードを活用した振り返りもしている。前回学んだことを思い出すことで長期記憶を図る。	変更なし
思考・判断・表現	B	表やグラフなどの資料の読み取りから、自分の言葉で表現することが課題としてあげられる。そのため、各教科で自分で考える時間を設け、課題に一人で向き合い「思考・判断・表現」する時間を鍛えている。また、カリキュラム・マネジメントを実施し、教科を横断した指導を心掛けている。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	「基本的な計算や日常的な漢字」等の基礎事項は定着は見られるが、「各教科の専門用語の定義」や「抽象的な概念（関数や歴史の年代など）」の理解に課題が見られる。特に、国語では古文や複雑な文構造の理解、数学では数学的な用語や概念の定義の正しい理解、社会では歴史的背景の理解、理科では地球や生命の専門用語の定着に大きな課題が見られた。同一集団での経年比較により、理科の知識・技能について改善が見られたため、どの教科においても授業の中で既習事項を確認したり、繰り返し学習したりする機会を設け、生徒が知識・技能を獲得し、定着させられるように授業改善に努める必要がある。
思考・判断・表現	「複数の資料やデータから根拠を見出し、論理的に推論する」ことに課題が見られた。各教科では、国語で、「読むこと」において、目的に応じて適切な情報を得て内容を解釈すること、資料から根拠となる情報を正しく引用して文章を作ることなどの情報の整理と活用。数学で、一次関数のグラフの変化を事象と結びつけて解釈すること、データの分布（ヒストグラム）から必要な情報を選択して判断することなどの事象の数学的解釈。社会では、歴史分野で、文献資料を活用して中世の日本を大観したり、武士の政治進出に伴う社会の変化を考察したりすることなどの多面的・多角的な考察。理科では、対照実験の結果から判断の根拠を見出したり、条件変更に伴う結果の変化を予測したりする実験データの論理的な分析に課題が見られた。生徒質問「自分で課題を立てて情報を集め、整理して発表する学習活動（総合的な学習の時間）」への取り組みについて、市平均をやや下回ったので、総合的な学習の時間で各教科で身に付けた見方・考え方を働かせながら、探究的に課題解決する取り組みを強化する必要がある。

⑤	評価（※）	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	授業では各教科で小テストを繰り返し行ったり、数学で週末にその週の学習内容を振り返る週末課題を実施したりすることを通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着に努めた。廊下に小テストを置き、必要な生徒が自由に持っていき学習できる環境を整えた。スタディサプリやドリルパークは一部教科での活用となった。取り組み状況も生徒によって振り返りの活動については、スクールダッシュボードの活用はできなかったが、ほとんどすべての教科で、紙やエクセルシートを使用して1時間の学習を振り返る時間を設定した。
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、生徒が個人またはペア、グループで考え、判断し、表現する場面を1単元で1回以上設定した。また、数学や社会、理科では単元や章のまとまりごとに自分で課題を設定し、探究のプロセスを回しながら課題解決する場面を設定した。また、総合的な学習の時間では、昨年度に比べて、各教科で学習したことを活かして思考・判断・表現する場面を設定することができたが、目標の学期に1回以上の実施はできなかった。

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着に向け、教育課程を変更し帯授業を実施する。この時間では、小テストや単元テスト、補強学習等を通して、すべての生徒が知識・技能を身に付けられるようにする。また、生徒が個別最適な学びができるような授業の実践、環境づくり、新しく導入されるiPadを有効的に利用し、デジタル学習基盤を十全に活用して知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査で、「複数の資料やデータから根拠を見出し、論理的に推論する」ことに課題が見られたため、国語や社会では、複数の資料を結びつけ、引用する力の育成、数学や理科では、条件の変化と事象を論理的に結びつける力の育成に重点を置いて取り組みを行う。また、すべての教科で、根拠を突き合わせるペアワークやグループ学習を取り入れ、推論の妥当性を検討する力を身に付けたい。総合的な学習の時間では、3年間を通して、各教科で身に付けた見方・考え方を働かせながら、探究的に課題を解決する経験を積ませることで、思考力・判断力・表現力を鍛える。

※評　価
A　8割以上（達成）　　B　6割以上（おおむね達成）　　C　6割未満（あと一歩）